

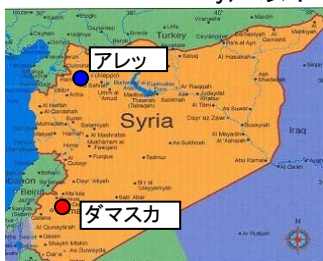
中東シリアに暮らして

岡崎市在住 ; 松崎 達

2004年10月から2年間JICAシニアボランティアとして中東シリア・アラブ共和国で
鋳物・金属産業への支援のため、アレppo市に在住。その間の生活記を報告します。

1. 赴任機関 ; アレppo工業会議所(Aleppo Chamber of Industry) 以下ACIと略称する。

シリア全土14の行政区に商工会議所が置かれ、2大都市ダマスカス(首都)、アレppo行政区に工業会議所が置かれている。主な役割は傘下企業の発展のサポートです。



シリア国地図



アレppo市街

注 ; 国土面積 ; 18.5万km²(日本の半分)
人口 ; 1836万人
ダマスカス、アレppo間は約350km
バス、電車とも約4時間

2. 私への要請内容 ; ACI傘下の鋳物・金属加工産業の生産性向上、品質改善、新技術導入サポート。

3. 活動期間 ; 2004年10月20日~2006年10月15日

4. 活動内容 ; ACI傘下には7000社あまりの企業群があり、約60%はテキスタイル産業が占めている。私の担当の金属産業は約15%程度で大企業は数百人程度の企業が2、3社、あとは数十人規模の小企業郡である。

その中で数社の鋳物会社を定期的に訪問し、主として、鋳物不良低減を通じ、生産性向上をはかった。

併せて、鋳物技術講演会、品質管理・TQM講演会などを通じ管理の重要性をアピールし、また改善活動を通じ改善の方法などの指導をしてきた。結果として、鋳物不良低減75%、生産性向上30%とある程度の成果を得たが、管理の苦手なアラブの人達に管理を定着するにはかなりの時間が必要でチャレンジablなことだと思ひます。

現場のワーカー達のハンドメイド鋳物の腕は確かで、積極的だが、会社といつても株式制度ではなく、金がある個人が親戚、縁者と経営する個人会社のため、まだ従業員のためではなく、

家族のための会社という意味合いが強い。そのため、会社システムが不十分で、効率面で問題がある。ちなみにシリアは80年代末まで社会主義政策をとり、企業が国有化されていたが、現在は順次私企業化への方向にある。しかしまだ種々の規制があり、企業主達は今後の政策の変化を注目している。



トラクタ製造会社(大企業)



各種鋳物会社(小企業)



技術講演会



ハンドメイド鋳物

5. シリア生活記 ;

5-1 総括 ; GDP約1380ドル(日本は33000ドル)という数字から判断すると、生活レベルが非常に低いように見えるが、日常生活物資は非常に安く、市場(一般にスークと呼ばれる)には物が溢れている。肉類(牛肉、鶏、羊)、野菜・果物など日本の数分の一から十分の程度。これは国土の大半が砂漠に近い乾燥地帯だが、地中海沿岸部や、ユーフラテス川からの取水でアレppo北西部地域は農業、牧畜生産が盛んで、シリアの人口が現在1836万人と少なく、石油資源の輸出などによる、外貨獲得などでGDPでは図れない豊かさがある。もちろん工業製品は大半輸入に頼っており、その値段は高い。



野菜・果物が市場に溢れている

5-2. 気候 ; 気候は砂漠乾燥気候で、アレppoでは4月半ばから9月末まで全く雨が降らず、いわゆる乾季、と雨季に明確に分かれています。この間特に7月~8月は日中戸外では非常に暑い、乾燥しているため、日陰や家の中ではそう暑さを感じることなく、日本のジツリした夏とはずいぶん違います。特に真夏の昼間は相当暑いので買い物など日が落ちてから行くと、高原の涼しい風に吹かれ気持ちのいい日が多い。(アレppoは海拔400mの高原です)そのためシリアの人たちは夏には夕方から活動する人たちが夜の街中は非常ににぎわっています。9月末になると盛んに雷鳴がとどろき、夕立のような激しい雨が降ると季節が替わる兆候です。



アレppoの大スーク

5-3. 交通 ; 交通機関は長距離、短距離バスが主流です。ダマスカス-アレppo間(約350km)が350円で毎日30分おきに出ているので鉄道もありますが本数が、少ないためほとんどバスでの移動になります。



無数の黄色のタクシー

また便利なのはセルビスというマイクロバスで街中の移動はこれでたいいの所は行けます。しかも一回10円以下という安さです。ただ行き先がアラビア語なので土地勘とアラビア語を読めないと利用しにくい面があります。その他の手段はタクシーですがこれも無数に走っており、4~5kmの移動は約80円くらいです。拙いアラビア語で産業発展のためのサポートにきている専門家だというと、料金は要らないという気のいい運転手もいます。(一方まれにボルのもいる)

5-3. 安全 ; 日常生活については中東のイメージから非常に危険な感じですが、全く不安を感じることなく過ごせました。一つには政治体制がバース党一党支配で強い軍政を敷き(イスラエルとの交戦状態)街中いたるところに銃を持った軍隊、私服、警察が目光らせているので、これが抑止力になっているでしょう。また85%がイスラム教徒でしかも非常に敬虔な人たちです。普段でも一日5回のお祈りをし、特にラマダン月(日の出から日没まで一切の飲食を禁ずる宗教行事/年に約一ヶ月)には毎日日没後の食事(イフタールという)が終わると家族揃ってモスクに説教を聴きに行くといった習慣が定着しているので宗教心も抑止力になっているでしょう。もちろん街中のかみあったところでのスリの話、日本人がカメラを取られたり、泥棒に入られたりといったことはあるが、女性が街中を深夜一人で歩けることから、(街中はナトリウムランプが多く暗い所は少ない)安全度はかなり高いです。



郊外の石造りの住宅

5-4. 住宅事情 ; シリアの住宅事情は木材がないため、ほぼすべて石つくりです。なんせ、土地が安い?のでしょう住宅面積は日本では考えられないほどの広さです(ワンフロアで約200~300m²) 外国人にはやや高いレンタル費用ですが、現地の人たちは5~6百ドル程度ようです。(ちなみに庶民住宅は数十ドルくらい)街の中心地では昔ながらの細い道の両側に3階建てくらいのアパート郡ですが、郊外では広々とした道路に沿って、3~4階くらいの住宅が並んでいます。もちろん持ち家もありますが大半賃貸住宅で広いワンフロアを借りています。各家のセキュリテイはやはり日本よりはるかにしっかりしています。(2重扉、パーグラーパー、など)やはり貧富の差が大きいのでこうなるのでしょう。



住居内部(広いリビング)

5-5. 人々 ; シリアの人たちは日本に対し、非常に親近感を持っており、フレンドリーな人達で、工業製品などの品質は世界で一番だと知っていて、ある意味で尊敬されています。ただ当然のことながら、アジア人の顔の区別がつかないため、中国、韓国、マレーシアかと聞かれることが50%くらいあります。タクシーに乗り、日本人だと判るとトヨタ、ホンダなどをよくしており、日本車が一番だといって話しかけてきます。近所の市場(スーク)での買い物でも親切に声をかけて教えてくれたり、試食サービスなどもよくありました。ちょうど50年くらい前の日本の市場と同じ雰囲気のように思います。(やや清潔感にかけますが、会話のある買物です。) 欠点はゴミなど適当に捨てたり、2階以上の家からゴミが落ちてきたりします。多分砂漠生活のなごりなのでしょう。しかしそれで近所での揉め事にならないおおらかさが羨ましいです。



スークの陽気な人たち

5-6. 料理 ; 家庭料理はマハッシというナス、ズッキーニのなかをくり貫き、そこに野菜、肉 など詰めて、味付けしたもの、ヤブラ(ぶどうの葉の塩つけしたもので米をまき、蒸したもの)、ババガニュージュ、ホンモスと言ったペースト食品、キツベ(肉料理)、ケバブなどなどその他ハブラナイエ(羊の生ミンチ肉)、カスターータ(羊の骨つき肉)などレストラン料理でよく食べます。帰国時はラマダンの最中でしたが、この時期日の出から日の入りまで飲食は出来ないが、日の入り後、イフタールという食事をします。ちょうど一昔前の日本の正月のように、この食事に友人、知人、親戚、縁者をそれぞれ招待しあって、家庭、レストランで会食しますが、写真のようにかなり豪華なご馳走が供されます。もちろん内容はアラブ料理ですが非常に美味です。



マハッシー



ハブラナイエ(羊生肉のミンチ)



イフタールの食事とスイーツ



5-7. 娯楽 ; 街中の娯楽は日本のようにパチンコ、カラオケ、遊戯場など皆無でもちろんイスラムの教えで基本的に男女が一緒にいてはいけない。もちろん結婚しているか、婚約していれば手をつないで歩いているカップルもよくみかけます。そのため、男性同士、または女性同士で喫茶するのをよく見かけますが、多分これが娯楽の一つなのでしょう。映画館はあり、まあはやってるようです。今年は9月24日から10月23日までラマダンでしたが、この時期、家族知人との日没後の会食がレクリエーションになってるようにおもいます。アルコールなしで夜遅くまで談笑しているのが方々で見られます。

5-8. 特産 ; シリアの特産は何と言っても木綿製品です。郊外に綿畑が広がって

おり、収穫期には綿の山にシートをかけて野積みしているのが方々で見られます。(10月末にはコットン祭りがアレppoであります)従って綿製品は非常に安く、Tシャツ、子供服、ワイシャツなど溢れかえっており、終日ごった返しています。大体数十円から数百円レベルです。背広、でも2,3千円程度であります。アレppoではビスタチオが有名で夏の終わりになると写真のように生のビスタチオが大量に出回ります。また中東の国はどこでもオリーブをよく食べますが、オリーブオイルを絞った後、さらに石鹼をつくっており、アレppo石鹼が有名で最近日本でも出回るようになっていきます。



生のビスタチオ



アレppo石鹼

5-9. その他 ; JICAではシニアボランティアのほかに青年海外協力隊の若い皆さん(20歳~40歳)が活動しています。主に幼稚園・保育園教育、音楽教育、日本語教育、体育指導、村落開発などですが、それぞれ個性的な活動で成果を上げています。例えば、村落開発では、手工芸を教え、村人の現金収入の道を開発したり、保険・衛生指導など、幼稚園・保育園では園児に楽しく遊ばせる工夫を指導(シリアでは園児を遊ばせる保育はなく、字を教えたりし、管理し易くしている)、音楽教育では全国的な音楽会開催のサポートなど地道な活動に若い青年達が日々取り組んでいます。その他、水資源の使い方指導、環境改善、専門化と一緒に障害者のサポート活動などバラエティのある活動をしており、必ずしも専門性がないが、創意と工夫で積極的に取り組む熱気を感じます。



幼稚園での体操指導



音楽会指導

以 上